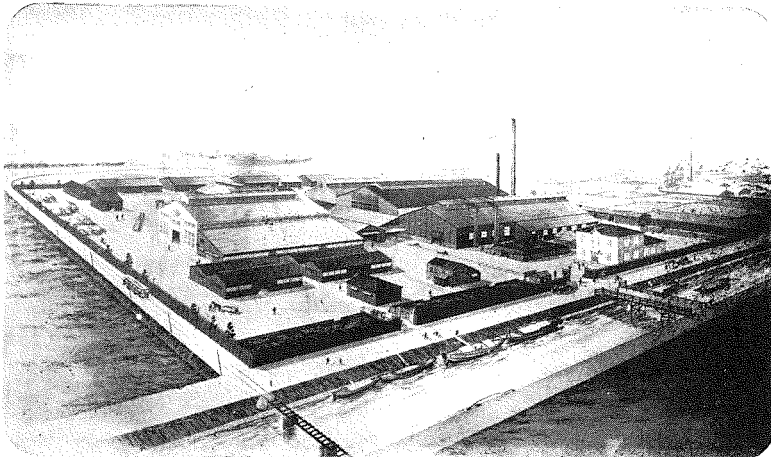


日本最初の電氣製鋼爐

大同電氣製鋼所の事業

現代文化の基調たる科學の發達は一日として停止する事はない、殊に電氣利用の方面に於て然りである。其利用及び普及程度を以て一國文明の尺度とさるゝ亦宜なる哉である。我が國に於ても近く四十年間に於ける發達は實に驚くばかりで現在斯業の經營者數も決して少くない。

而して斯界に於ける先驅者として夙に其盛名を馳てゐる株式會社大同電氣製鋼所は皇室の尊崇厚き官弊大社熱田神宮を距る東方四丁東海道線の列車が將に名古屋に入らんとする南郊に堂々たる建築物が聳えてをる足一度門内に入らんか其處に



(1) 大同電氣製鋼所熱田工場 全景

(1) General View of Atsuta Factory, Daido Electric Steel Manufacturing Company.

はハンマーの地響や、鐵腕の唸り、各種各様機械の交響樂をきゝては灼熱せる魔王の如き怪物を見るであらう。

然り、その怪物こそ同社が誇りさせる電氣爐である、其猛威は四邊に凄じき音響を立て而も晝夜を分たぬ此の大活動はさすがに大同電氣製鋼所なるかなと思はしめる。然りありとあらゆる文化の源は其處より湧き出され、形造られるのである。鐵道電車の部分品、或はレールクロツシング然り、震災復興事業になくてはならぬ建築材料、橋桁金物、浚渫機部分品然り小は日用家庭に使用せらるゝ双物

地より、大は數萬馬力を回轉する水車ランナーに到る迄其他此世に生きとし生けるものは皆此の鐵と鋼の恩恵に與らざるものはないのである。然も其是を生み出す電氣爐は本邦最初のものであつて、之れが創設者たる同社は唯だ中京の誇りのみならず、又日本工業界の一異彩である。

同社は大正五年今の東邦電力株式會社の創立に係る株式會社電氣製鋼所と、大正七年の創立で大同電力株式會社の分身である大同製鋼株式會社と、大正拾壹年七月合同に因つて設立したるものにして資本金二百八十萬圓全額拂込済である。

營業所は本社を名古屋に、出張所を東京、大阪、門司、仙臺に代理店を各地に設け、盛に販路の擴張に力めてゐる。工場は熱田と築地、木曾福島の三工場を有し、生産能力は一箇年、鋼塊五千噸、工具鋼六百噸、材料鋼三千噸、鑄鋼二千噸、合金鐵及鉄鐵六千噸を算し、電力設備は一萬二千七百馬力である。

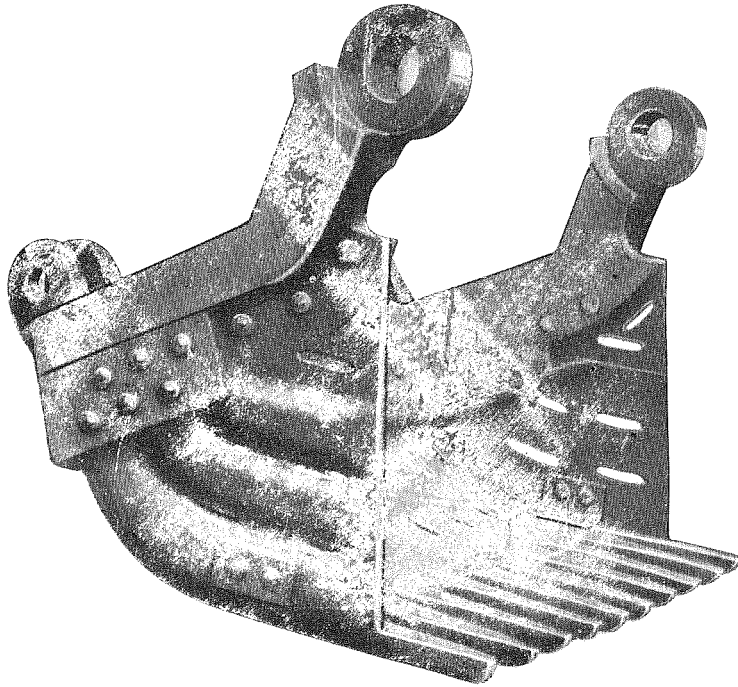
同社は曩に獨逸製鋼界の權威者、元クレフエルト製鋼會社技師長ウキルチエツク博士を招聘し、同氏指導の下に多數の優秀なる専門家に依つて、技術方面の革新を計つたので、品質の點に於ては全く他社製品の追従を許さ

す、殊に「エレクトラ」高満俺鋼製可動撿器類は、本邦隨一の製造業者として、普く推奨され既に「ロイド」の證明書を有する程の完全無缺のものである。

尙材料研究に就ては設備の精を以て誇る同社研究室は勿論、斯界の世界的權威者たる東北帝國大學金屬材料研究所長本多光太郎博士の下に、數名を派遣して其研究に没頭し、其他製造方面にも將た營

業方面にも銳意力を注いでゐるから今後の進歩發展たる蓋し刮目に價ひするであらう。

而して同社の需要先は内務省土木出張所、各地港務所、鐵道省、陸海軍工廠、各市電氣局其他で、名古屋は勿論、關東、關西四國九州臺灣北海道朝鮮、滿洲の諸官公署及び民營會社を網羅してゐる。



(2) 大同電氣製鋼所製品 エレクトラ高満俺鋼製液漕機用グラブバケット(重量1,263斤)
 (2) "Electra" Grab Bucket, Weight 1,263 Kilograms, A Product of the Daido Electric Steel Mfg. Co.

(3) エレクトラ滿俺鋼破壊試験後の状態
 (3) Condition After Breaking Test of "Electra" Manganese Steel.

